

平成 25 年 10 月

## 平成 25 年度「私立短期大学図書館情報担当者研修会」 研修会全体報告

平成 25 年度私立短期大学図書館情報担当者研修会は、「短期大学図書館の実態を踏まえたサービスの再構築－マネジメント・電子資料・教員との協働－」をテーマに東京市ヶ谷のアルカディア市ヶ谷（私学会館）で 9 月 9 日から 10 日にかけて開催された。隔年で行われる本研修会は、今年で第 40 回を迎える節目の年であり、全国の短期大学図書館関係者 56 名が参加し、講演、研究発表、会場とのディスカッション、情報交換会、そして分科会へと続く研修を受け、参加者が抱えている課題を忌憚なく出し合い、交流を深めることができた。

初日では開会にあたり、日本私立短期大学協会図書館情報委員会の佐久間勝彦委員長から「嘘を嫌う体をつくる－一本の線・一つの音・刃物研ぎ」を題材とした挨拶が行われた。

その後講演が行われ、国立情報学研究所学術基盤推進部次長の尾城孝一氏から「国立情報学研究所（NII）の学術コンテンツ事業戦略」と題してお話をいただいた。NII の組織体制から事業の内容、特に共用リポジトリサービス（JAIRO Cloud）や ERDB（国立情報学研究所が計画している電子リソース管理データベースで、電子ジャーナルや電子ブック等の書誌情報と契約情報を一元的に管理し、日本国内の大学図書館等で入手可能な電子リソースの総合目録の構築を目指す事業）についてわかりやすく解説していただいた。

次の研究発表では、本委員会の委員が 2 年にわたって行ってきた研究の内容を簡潔に発表した。本委員会には、三つの研究グループがある。第一グループは「短期大学図書館の運営実態に関する研究」として短期大学図書館の実態調査アンケートの結果報告と分析、第二グループは「利用活性化をめざす図書館サービスのあり方に関する研究」としてリポジトリやデータベース、また電子情報の導入実態の報告と分析、そして第三グループは「図書館を拠点とした教員との協働による学習支援に関する研究」をテーマにラーニングコミュニティや情報リテラシー教育を教員とともに行う学習支援についてインタビュー調査の結果も踏まえながらの発表を行った。

この研究発表のあとは、各研修発表に対する質問を中心に会場とのディスカッションが行われている。さまざまな質問が寄せられ、発表者がそれに答えると同時に会場から意見や実例を発表していただいた。アウトソーシングと個人情報保護の関係や職員の研修体制について、電子書籍の導入状況、また利用活性化に向けた具体的な取り組みなど、多くの質問が寄せられた。すべての質問に答えることはできなかったが、発表した委員が答えるだけでなく、会場からの発言も多く、活発なディスカッションの場となった。

今回の研修会では、参加した人が自分の課題や事例を積極的に発表できる場を多く設け、参加者同士の交流を深めることを主眼に研修会を組み立ててきた。夕方の情報交換会では、

まず名刺交換の場を設け、参加者を知ることから始めたが、その結果、その後は和気あいあいとした交流が続いた。

二日目は、午前9時から12時まで、3時間を使って3つのグループに分かれた分科会を行った。前日の講演や研究発表を踏まえながらそれぞれの図書館の課題を話しあうグループ討議で、サービスの再構築に向けた取組みについて参加者自らが考える時間となった。本委員会の委員がファシリテータを務め、参加者の所属する図書館の実態を発表してもらい、同時に参考となる事例や意見を交換し合うことができた。

なお、本研修会は二日目の午前中で終了し、午後はオプション企画として、「明治大学和泉図書館」と「聖徳大学川並弘昭記念図書館」の見学会を行った。明治大学には33名が参加し、聖徳大学には10名が参加した。

今回の研修会には北海道から沖縄まで全国の短期大学図書館の関係者の皆様に広くお集まりいただき、情報交換も含め、充実した研修会となった。

社会の急速な変化の中で、短期大学図書館もさまざまな課題を抱えている。だからこそ、今回のような研修会が必要であり、参加者が相互に情報交換ができる場の大切さを実感した研修会となった。

文責：齊藤誠一

